

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291500047		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホームあかね雲		
所在地	千葉県茂原市茂原541番地17		
自己評価作成日	平成24年1月13日	評価結果市町村受理日	平成24年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成24年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の想いが実現できるよう、一人ひとりに合った生活を提供している。また、外出の機会を多く持つようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR茂原駅から徒歩10分のところにあり、駐車場もスペースがあるので、電車でも車でも訪問しやすいホームです。 毎日一人ひとりについて、介護の詳細な記録を取り、その記録及びバイタルの計測値等を記載した表の写しが毎月家族に送付されるので、毎日の状況がよく分かり、家族にとっても安心して任せられるホームであると思われます。 看護師が常駐しているうえ、提携医療機関により月1回定期的に訪問診療があるので、医療面でも安心感があります。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示して、共有できるようにしている。	運営法人自体が地域とのつながりを重視していますが、当ホームでも地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を掲げています。職員の話から、日々理念に沿った介護を実現しようと努めていることが窺われます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・自治会に加入し、行事などに参加している。 ・学校バザーに寄付し、バザーにも参加している。	施設長が自治会の会合に出席し、納涼祭には利用者共々参加しています。敬老の日には75歳以上の利用者にプレゼントが届けられます。また、小学校の運動会に招かれ、小学生とともに利用者も玉入れ等に参加しています。	近隣の方をホーム行事に招いたり、ボランティアや体験学習の受け入れ等開かれたホームとなるような試みが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合に参加して、地域の方々に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、開催できていないということが現状である。	開設後漸く1年経ったところで、運営推進会議は未だ開催に至っていません。	会議は2カ月に1回以上開催するのが望ましいとされています。市担当、地域包括支援センター、介護相談員、民生委員、町会長等をお願いして、早期に開催にこぎつけることが望まれます
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡事項や活動状況の共有を行っている。同法人事務所においても、常に情報交換を行っている。	ケアマネの定例会が月1回開催され交流の機会があります。東日本大震災後は震度5以上の地震が相次いだので、その都度安否照会・報告で連絡を取り合い、親密な関係が出来上がりつつあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には、積極的に参加している。	身体拘束排除を謳い、職員は身体拘束についてのDVDを観て話し合う等して理解が進んでいます。、玄関は、職員が3人以上居る時間帯は施錠せず出入り自由にしてあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ほかの職員に資料等の提供をしながら、自分たちのケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する方が、現在までいないため、詳しいことは理解できていないように思う。今後、必要となる可能性もあるため、学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明等を提示・説明をして十分に納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に直接意見を聞いている。	入り口近くに意見箱を置いていますが、利用されることはほとんどありません。家族からは面会のための来訪時に意見を聞くようにしています。利用者については、希望を聞いてボーリング大会を催したり、海を見に海ほたるへ出かける等しています。	運営推進会議を開催して出席してもらったり、家族会のようなものを開いて意見を聴く等、家族の思いの把握に一層の工夫が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や処遇に関する相談を随時受け付けており、人事考課時の面接でも相談を受けている。	毎月1回職員が集まってカンファレンスを行い、その際運営について自由に意見が出るようにしています。たとえば、利用者が望んでいるのでカラオケボックスに行つてはどうかとの提案を、早速実行に移す等しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、自己目標を立て、毎年2回人事考課表を作成し、自己評価、管理者評価、施設長との面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加するように指導している。また、新入社員には社内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会を設け、参加しているが参加率があまり高くないため、交流機会は少ないと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に利用初期は関わりを多く持ち、関係づくりに努め、会話することが難しい方も日々の様子から把握することで信頼関係強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や心配事、生活やケアについて話し合っている。面会時や電話、手紙等で状態を伝え、信頼関係強化に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を検討している段階での話し合いにおいて、現在困っている事柄を聴取し、最も適したサービスについて情報提供や協力の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の先輩」ということが根底にあり、敬意且つともに生活している家族のような関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、サービス利用の際、チームの一員として最もご本人をよく知る重要なチーム員として認識いただけるように説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・考え方としては、理解はあるが支援という実践の機会はない。 ・面会時間を制限することなく、都合のつく時間に来所されても、受け入れられるようにしている。	家族だけでなく、近所の方も家族と一緒にホームを訪れ継続的な交流を続けています。月1回、写真入りのホーム便り、日々のホームでの様子、食事や排泄、バイタル等の記録を家族へ送付し、ホームでの暮らしの様子を詳しく知らせています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお茶をしたり、家事を行ったり、利用者同士で助け合ったりする場面が見られる。職員は活動と一緒にすることで、利用者同士の関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所したご本人との関係は途切れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が難しい場合は、性格や普段の様子から意向を認識するよう、努めている	日々の会話や仕草など利用者と毎日接する中で、意向の把握に努めています。また、意思疎通が困難な場合には、表情や家族の情報から思いを汲み取り、気づきを毎日、日々の記録ノートや業務日誌に記録し、利用者本位の支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後も職員間で情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや支援の中で本人が出来ることを見極め、ケアにあたっている。また、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフやご家族からの意見を聞き、多くの観点からその方の評価を集めている。	利用者・家族の意見や希望、職員の意見や日々の記録、受診内容を参考に個々に沿った目標を立て介護計画を作成し、3ヶ月毎に達成状況の確認や評価を行っています。なお、状況変化があった場合は随時計画の見直しを行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記載し、情報を共有して、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の意見を傾聴し、問題点があれば、柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物の参加や買い物、食事会を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望により、医療機関への受診の支援を行っている。また、提携医療機関では定期的な往診といつでも電話相談をとれるような体制になっている。	常勤の看護師が健康管理を行っている他、現在入居者全員が提携している医療機関で月1回内科医による訪問診療があります。日常の記録簿から早めに体調変化に気づくことが可能です。定期的に口腔内をチェックして、必要に応じ歯科を受診します。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者の健康管理・相談・助言を行っている。看護師は、直接対応を行うことで、個々の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、必要時には介護サマリーを記入し、情報提供をしている。面会に定期的に行き利用者ご本人やご家族が安心できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、ご家族に医療や生活の意向確認をして、連携医療機関に伝える。発生すると思われるリスク等の説明を伝え、ご本人・ご家族の理解・納得を得られるように対応する。	入居時に重度化した場合における対応や、終末期の指針の説明を行い、意志確認書を取り付けています。実際に終末期が近づいた場合には、医師、家族と話し合い、住み慣れたホームで安心した最期を迎えられるよう、24時間対応の医師の診察や家族との連携を図り支援を行います。	ホーム全体で終末期に対する知識や接し方を学ぶ機会を設け、看取り介護の研修会を重ねることで、職員の看取りに対する理解が深まり、今後の支援に活かされることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を社内研修やカンファレンス時に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設から避難所までの避難訓練を行い、問題点等を話し合う。災害時、自治会からの応援態勢が出来ている。	消防訓練は年2回実施しています。夜間の災害を想定し、いざという時は、町会長に連絡し近隣の応援を仰ぐことについて了解を得ています。スプリンクラーは漸く近々設置の運びとなりました。備蓄も水60リットルをはじめ最低限行っています。	消防署を呼んでの訓練、人手の少ない夜間を想定し現実に即した訓練を行うこと、地域に消防団があればその応援を仰ぐこと、備蓄品について本部と相談し、質・量の見直しをしておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持って、利用者に接している。	呼びかけは、入居前から呼ばれていた名前で親しみをもって行っています。また、一人ひとりに合わせた言葉かけや、話す内容によっては居室での対応を行っています。排泄や入浴時には露出部分に気を配り、羞恥心に配慮した支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択が出来るように「〇〇しませんか？」や「どちらがよいですか？」等の声掛けに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「～したい」という気持ちを大切に、希望に添う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご本人の意向に沿って着替えを行っている。お化粧をしている利用者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に配膳を行っている。また、陶器の食器にこだわりの食事を提供している。	食事の準備には、一人ひとりの出来ることを見極め、テーブルを拭く、お茶を入れる、配膳や下膳、食器洗いなど職員と一緒にしています。また出前や外食では利用者から希望を聞き取り、蕎麦や鰻など食事を楽しむ機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、盛り付けの量や形態の調整をしたり、お茶の時間を設けて水分不足にならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に行っている。 ・自分で歯磨きができる方、声掛けによって実行できる方、それぞれの方法で実施していただき確認をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄に合わせ、トイレ誘導を行っている。 ・トイレのドアを赤くして、判別しやすくしている。	出来る限りオムツを使用しないよう個々の排泄パターンを記録簿で把握し、声かけや誘導を行っています。入居前はオムツだった方が現在ではパッドに変わった方もあります。トイレの中は寂しい、怖いとの声があり、その方の時には音楽を流す工夫を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食の工夫に取り組み、意識的なマッサージ、体操、水分摂取をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	菖蒲湯・ゆず湯など季節感を出すよう、工夫している。	シャンプーは利用者の好みの物を個々に用意し、週2～4回午後に入浴剤や季節の柚子湯や菖蒲湯など楽しみながらゆっくり温まっています。また、入浴を好まない利用者には、無理強いせず声かけや時間をずらす工夫を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を長くとる方、午後に睡眠する方など個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表を保管し、常に関覧し、確認が出来るようになっている。調剤薬局との連携により詳しい薬の情報を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や経歴により個々にあった役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフとの外出は、日常的に行っている。	天気の良い日は駐車場のベンチや駅前の展示物を見に出かけ、元気な利用者が車椅子を押して職員が付き添い近隣を散歩しています。同法人のホームまで、毎日昼食を車で取りに出かけ、順番で数名がドライブがてら外出しています。また、利用者の希望を組み入れた行事提供を行っています。	全ての利用者に1日に1回は外の空気を感じる機会を設けることや、ボランティアや公民館での資源を活用して暮らしを楽しむ機会を多く取り入れることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の人以外は、個人での金銭管理は行っていない。買い物時、預り金を渡し、利用者が会計を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りを変更したり、生け花を飾り、環境作りに努めている。	旧クリニックを改造した建物なので、全体としてそれほどゆったりした造りではありませんが、居間・食堂の開口部が大きく清潔で明るい感じです。入り口や壁面に梅の花、節分等の季節を感じさせる飾りを施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各種、雑誌・朝刊を自由に読めるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入口にご本人の似顔絵をかけてあり、自宅で使用していた置物や仏壇を持ち込み、心地よく過ごせるよう努めている。	エアコン、クローゼットは備え付けですが、その他は持ち込み自由です。ベッドを使わない方、仏壇、大きな三面鏡、テレビ、ラジオが置かれていたり、ぬり絵のカレンダーを壁に張ったりと思ひ思ひの雰囲気作りが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどにより、できるだけ介助なしで移動できるようにしている。トイレの認識については、赤テープで枠取りをして、視覚的に理解してもらうよう、工夫している。		